

授業科目名： 外国史演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：根占 献一 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>世界史上の文化的発展に関わる歴史的事項を知り、文化を創り出す者とこれを支援する者との関係性などに着目できる視点を養い、高等学校の地理歴史科の教員を目指す者に必要な基本的知識の修得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>イタリアの一都市フィレンツェがその中心となるルネサンス文化は古代と中世とどのような関係にあったのか、また当時のヨーロッパの政治的、社会的状況とはどのような関係にあったのか、そして文化の担い手となった芸術家、学者(人文主義者)などの活動はいかに行われたのかなどを見る。さらに他地域との交流関係、また影響関係を世界史的視野に収める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：文化・文明論</p> <p>第2回：古代の地中海文明</p> <p>第3回：古代と其中世への転換</p>			

第4回： アルプス以南と以北のヨーロッパ

第5回： 都市国家フィレンツェの誕生

第6回： フィレンツェ・ルネサンス

第7回： 銀行家メディチ家の登場と役割

第8回： 古典文化と人文主義

第9回： 古典主義としての新芸術

第10回： レオナルドとミケランジェロ

第11回： ローマ・ルネサンスとラファエロ

第12回： 世界の首都ローマ

第13回： ローマと世界、そして日本

第14回： 16、7世紀の日本における文化と後援者

第15回： 芸術・文化の東西性

定期試験

＊スクーリングでは、すべての内容を包括的に扱う。

教科書

(1) 根占献一『ルネサンス文化人の世界』知泉書館

(2) Margaret L. King, The Renaissance in Europe. (こちらで配布します)

参考文献

ブラッカー『ルネサンス都市フィレンツェ』岩波書店

ブルクハルト『イタリア・ルネサンスの文化』中央公論新社。

アントネッティ『フィレンツェ史』白水社。

根占献一『ロレンツォ・デ・メディチ』南窓社。

同上『フィレンツェ共和国のヒューマニスト—イタリア・ルネサンス研究(正)』創文社。

同上『共和国のプラトンの世界—イタリア・ルネサンス研究(続)』創文社。

同上『イタリアルネサンスとアジア日本』知泉書館

学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。